



特集

次代の暮らし方

近年、テクノロジーは加速度的に進化し続け、生活のあり方も大きな転換期を迎えています。記念すべき第70号となる本誌では、これからの新しい住まいの姿を見つめ、「次代の暮らし方」を特集します。その象徴となるのが、最新のテクノロジーと温かな地域コミュニティが溶け合う「AI TOWN天辰」。エネルギーを賢く使いながら、もしものときに家族をしっかりと守

り抜く強さを兼ね備えています。そして、ヤマサハウスがこれから挑むのは、伝統の知恵を受け継ぎながら、最新の技術によって心にゆとりを生み出す家づくり。それは便利な機能を追求することだけでなく、100年先まで健やかな暮らしを紡いでいくための、お客様との約束でもあります。一歩先の日常を形にした、新しいスタンダードをご紹介します。

◀「AI TOWN天辰」空撮(2025年12月10日撮影)



スマートタウン

環境・エネルギー・防災 すべてに備える、未来の街づくり



見守りカメラ

タウン内ネットワークと連動。公園で遊ぶ子どもたちをスマートフォンで確認できます。



パーゴラ

災害時に撥水性のあるテントシートで囲えば、一時避難場所などになる休憩所。



かまどベンチ

普段はベンチとして利用。非常時には座板を外して、炊き出し用のかまどに。



スマコミライト

太陽電池で充電し、LEDで照らす街灯で停電に影響されません。スマートフォンの充電機能も。

すべての家がZEH※！電気を自給自足する街

「AI TOWN天辰」は全戸ZEH。太陽光と蓄電池で電気を自給自足します。最新技術が経済的なゆとりを生むとともに、災害時も電気が使える安心感が家族の穏やかな日常を守り抜きます。

※Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略語。住まいの断熱・省エネ性能を高めて、太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の一次消費エネルギー量の収支を正味0にする住宅のこと。



コミュニティタウン



ICT※が紡ぐ自助と共助と、 地域のあたたかな絆

住民専用サイト「ココクル」は、ICTで自助・共助を促す基盤。回覧板機能や、迅速な情報共有、共有する備品の貸し借りなどを通じ、デジタルとリアル両面から住民同士の絆と助け合いを育んでいます。

※ICT(Information and Communication Technology)は、情報や通信に関連した技術の総称。



住民専用サイト「ココクル」

○



AI TOWN天辰では、ヤマサハウスのモデルハウスを見学できます！

伝統の木造建築と最新のZEH技術が融合した住まいは、電気の自給自足を実現します。災害備蓄に適した広々としたロフトを備えるなど、防災対策も徹底。鹿児島島の風土に寄り添い、家族の安全を永く守り抜きます。

ご見学の
お申し込みは
コチラから



※誌面に掲載しているCG画像はイメージです。



古き良き知恵と、
未来の技術が交わる場所。
絆でつながる家と街から、
次代の暮らしが始まる。

多彩な知恵を重ねて、
一歩先の未来を形にする

2016年に提唱された未来社会(Society 5.0)。そのビジョンを受け、2017年から複数の企業や団体が連携する共同事業体を中心に「AI TOWN天辰」のプロジェクトは動き出しました。多様な立場の人々が関わるなか、事務局としてプロジェクトを支えてきた小藤さんにお話をうかがいました。

「民間の知恵と柔軟性を活かすことで、社会課題への新たな解決策が生まれると信じています。とはいえ、多岐にわたる調整には高い専門性が求められる、その統括は困難の連続でした」と当時を振り返りま

す。多くの専門家が一体となって知恵を出し合うことで、100年先を見据えた「新しい暮らしのモデル」が今、着実に形づくられています。

「絆」が育む、
助け合いのある
心地よい暮らし

完成から5年、この街は「自助と共助」が息づくコミュニティへと成長を遂げました。自治体・企業・そして住民の皆さんが歩み寄り、お互いを理解するプロセスを経て、今では住人同士の強い結束が生まれています。デジタル技術に支えられながらも、根底にあるのは「地域の絆」という確かな安心感です。



AI TOWN 天辰
ひと・まち連携事務局
小藤 浩一さん

南国殖産株式会社所属。2018年より「AI TOWN天辰」の基本計画に参画。鹿児島県スマートハウス推進協議会事務局長として参画企業の調整、入居後の管理・コミュニティ運営支援などを担当する。



〒895-0011 薩摩川内市天辰町
Tel.0120-78-1110
(10:00~17:00※土・日曜、祝日除く)

AI TOWN天辰の
詳細はコチラ



「共有スペースの活用や交流サイト『ココクル』を通じた活動で、住民自らの手で温かな日常が育まれています」と小藤さん。技術が人を守り、絆が暮らしを豊かにする。そんな理想的な変化が、天辰の街に溢れています。